

# みどりの風



医療法人 みどり会 枚方市藤阪中町3番20号 ☎072-868-2071  
 社会福祉法人 松樹会 枚方市交北2丁目10番1号 ☎072-898-2197  
 URL <http://midori.jpn.org/> E-mail [midorii@io.ocn.ne.jp](mailto:midorii@io.ocn.ne.jp)

編集責任者：理事長 中村 猛  
 編集：季刊誌発行委員会

## 第11号所感

理事長 中村 猛



厳寒の候、平成20年の幕が切っておろされました。年明けに世界の株価が下落し経済の先行き不安が先行しております。

リーダー格のアメリカでは大統領選挙の激戦に入っております。わが国では年金問題から食品会社の不祥事、ガソリン税の暫定据置議案の国会が始まっております。

私達の医療福祉分野では本年4月からの診療報酬決定の総枠0.82%ダウン、本体の0.38%アップの内容で詳細の点数改定に向かって中医協等の審議が伝えられております。

世はまさに激動期の中にあり、地球温暖化のグローバルな自然環境問題から各人の生活問題に至るまで迅速に決定的な対応がせまられており、息づまるスケジュール消化の中“時間ドロボー”が暗躍して、我々の大切なゆとり時間を奪っており、感じられます。

しかし、将来の不安を解消し、幸せで安定した生活が続けられるよう挑戦し、頑張っていかなければなりません。

なかなか先が見えない加速した変化のこの世の中を、上手にわたっていくのは、至難の業ではないかと空を仰ぎ、地面を眺め、ため息をついております。

私共の両法人組織について言えば、国の決めた社会保障のパイでの財政の中で、如何に無駄なく効率良く質の向上した

サービスを提供にもっていくか、現在の人材採用の極めて困難な中で板ばさみになり、四苦八苦しているところです。

つきつめるところ、国民の皆様の深い理解のもと、良好な信頼関係を持って、我々も仕事にやりがい、生きがいを持って、モチベーションを高めた職場環境に努力することだと思っております。

昨年暮れは山積する問題処理に追いまわられているうちに、血圧が少し上がって往生しました。しらすしらすのうちにストレスが体に蓄積したものと思われ、循環器内科の先生から内服をすすめられましたが、生活習慣の改善で何とか薬のまずコントロールしています。何時爆発するとも限らず、これから色々体と心に加齢現象が訪れることも覚悟して、自己の健康維持も本年の私の課題であります。職員スタッフ一同にもまず自己健康あっての人の世話が可能で、あたり前の事ですが、今年は特定健診、特定保健指導も診療報酬に設定される事で、まず自らが正しい生活習慣を実践して参りたいと号令をかけております。

本年度も相変わらぬ御指導・御支援をよろしくお願い申し上げ御挨拶と致します。



## ■ 看護部門のホームページを立ち上げました ——— ホームページ委員会 代表 藤原 千佳子

看護師の配置基準の見直しによって表面化し始めた看護師不足ですが、当法人でもこうした状況を少しでも改善し、看護師の就労・定着を促し、さらによりよい看護を提供する為の様々な取り組みを展開する中の一つとして中村病院看護部のホームページを作りました。

中村病院ホームページのトップページから看護部のホームページにすぐに入れるようにしていますので、是非一度、御覧になって下さい。当院の看護部のアットホームな雰囲気が伝わるように実際に働いている看護師の言葉を盛り込み、親近感を持って見ていただける仕上がりになっています。また、インターネットを通して様々な方に中村病院を知ってもらい、働いて見たい、話だけでも聞いて見たい、知り合いを紹介したいなど興味を持っていただけたらと思います。私達もホームページを立ち上げるにより新しいスタッフを迎え入れる心構えも整い、自分たちに不足しているもの・今後必要なことなど見直せる良い機会となりました。看護師が増員することでより良い看護を行う為にも是非ご紹介していただけるよう、よろしくお願い致します。

またホームページに関する様々な意見をいただきながら、見直しをはかり、今後はみどり会看護部ホームページとして充実させていければと考えております。

<http://midori.jpn.org/nurse/>



## 健康は食にあり

副院長 傍島 徹



世界一の漬物天国といえ、言わずと知れたわが日本である。種類も多く、粕漬け、麴漬け、ぬか漬け、みそ漬け、醤油漬け、塩漬け等がある。粕漬けには魚や肉もあるが、漬け物といえば野菜が中心であり、食物繊維、ビタミン、ミネラルの多いことが知られている。美食飽食の生活には漬け物が欠かせない。

日本にしかないのがぬか漬けである。

米ぬかに塩と水を加えてぬか床は作られる。しかしあの匂いと毎日かき混ぜる手間が嫌われて、台所からほとんど姿を消してしまった。糠は米偏に健康の康と書くように、栄養素の宝庫である。野菜をぬかみそに漬けているうちに、ビタミンなどの栄養素が染み込んでいく。例えば、たくあんのビタミンB1は生大根に比べ12倍にも増えている。

ぬか漬けは納豆、味噌、醤油と同じ発酵食品である。ジアスターゼなどの酵素や酪酸菌などの細菌がたっぷりあり、消化や

体の微調整に貢献する。しかもぬかのアミノ酸などが作り出す甘みや乳酸による酸味成分もある。

漬け物のよいところは、ビタミンが壊れず、ミネラルも流失しないことにある。醤油や味噌、ぬかを擁するわが食文化を大切に健康的な生活につなげたい。



## 自分に厳しく・他人に厳しく…

医事課長 石 脇 真



平成20年がスタートして一カ月が過ぎました。本年は医療関係者にとって大変重要な一年になると思います。診療報酬改定は国家財政の厳しさを背景に社会保障費の圧縮が叫ばれていましたが、昨今の医療現場の疲弊が考慮され、なんとか診療報酬本体はプラス改定で落ち着いたようです。今後詳細な点数が決定されていきますが、戦略立案のため情報収集・提供・分析を行っていきます。

**個人的な目標：自分に厳しく・他人に厳しく。**

昨年はお寺参りに明け暮れた一年でした。何となく心が癒されるような気がしたからです。本当に癒されたかはわかりませんが…。

とあるお寺での話を一つ。観光ガイドのおばさん曰く【不動明王の顔がなぜ怖いのか？それは道を誤っている人を叱りつけ・怒鳴りつけ

正しい道に連れ戻す姿を表しているからです。】なるほど。やさしい顔で慈悲の心でいっぱいな仏像もあれば、厳しく注意する怒りの顔の仏像もあります。現実社会でも両方が必要だと感じました。他人に厳しくするためには、まず自分に厳しく。出来るかな？

今年の医事課長としての目標は一人一人がスキルアップ出来るよう支援する。やさしさと厳しさが混在する、組織を造りたいと思いますが出来るかな？

今後も病院の顔として思いやりの気持ちを忘れずに患者様・関係業者の方々に喜んで貰えるような対応を心がけて参りますのでよろしくお願い致します。



## 中村記念病院

### 「回復期リハビリテーション」の充実に

院長 大川 直澄



中村記念病院は回復期リハビリテーション病院として平成18年4月開設以来2年を経過しようとしている。この2年間、脳血管障害患者様、整形外科疾患の患者様に中村記念病院退院後に自宅への有意義な生活を送っていただくことに取り組んできた。

新しい病院ということで若い職員が多いなかではあったが、これまで、医師、看護師、療法士をはじめ職員が一体となり、助け合いながら、基本理念でもある患者様の思いや立場を尊重し、また、退院時のアンケートからの指摘を真摯に受け止め、思いやりのある医療に努めてきた。

おかげ様で、多くの皆様に一定の評価をいただける病院になってきたものと自負している。

また、職員が様々なケースに対応できるよう、いろいろな研修会や講習会に予算を大幅に計上し積極的に参加させると共に、機会ある毎に全員参加の院内研修を続け研鑽を積み努力してきた。

しかしながら、まだまだ未熟であり課せられた課題は多いものがある。

このこともあり、本年一月から、関西医科大学校方病院リハビリテーション科より、吉田清和教授、佐々木万弓医師にお越しいただき、現場の中でリハビリテーションの充実にめざしご指導いただくこととなった。お互いが勉強していくという姿勢で、両院の連携を図りながら、中村記念病院が回復期リハビリテーション病院として患者様に信頼され質の高い医療サービスが提供できるよう努力を続けたい。そして、早期の在宅復帰と退院後の生きがいのある生活を患者様に送っていただきたいという思いは不変である。



## 救急患者のたらい回し ―老健施設から思うこと―

施設長 岡田 弘



最近、救急車を呼んでも搬送先が見つからず、次々とたらい回しされ搬送が1時間以上かかり、結局患者は死亡したというテレビの報道や新聞記事を耳にする。そこで何故そういう事態が起こるのかを考えてみたい。

その1つは救急が増加したことである。そして救急車をタクシー代わりに使ったり、待ち時間が長いので救急で、というもの

もある。また期待過剰ともいうべき、病院に入院すれば必ず治ってあたりまえという考え方がある。ところが現実にはそうは行かないし、まれには普通の医師にあるまじきミスをする人もいる。ひどい後遺症が残ったり、死亡したりすると家族は医師や医・病院を訴える。医師法ではやむをえぬ理由のない時は、医師は診察を求める患者を拒んではならないとの規定がある。当然医師は自己防衛上、満床であるとか、手が空いてないからという理由をつけて断る。夜中に起きて苦勞をして、下手をすれば莫大な賠償金を取られてはかなわない。かくて救急車は延々と搬入先を探す。

その2は医療自身の診療報酬の低いことである。医師あるいは医・病院経営者は高給取りであるように思っている人が多いが、今はそうではない。医師になるには、教育期間も長いし、莫大な金がかかる。一方、診療報酬は下がる場合が多く、薬の差益などはほとんどない(院外薬局が繁盛するゆえである)。だから医師は数でこなさなければならず、いきおい個々の医師は過勞に陥る。しかも救急

診療をやっても持ち出しの方が多く、ペイしない。そこで救急を中止する病院が増えている。

その3は公的病院の、いわゆるアルバイトを禁止したことである。すべての大学病院、自治体立病院、赤十字病院、社会保険病院などの常勤医は、時間内は勿論、他院で夜診や当直をすることは一切禁じられている。かつては医科系の大学が今より少なかった。田中角栄総理大臣の時に、1県1医科大学という風にアメリカ並みに増加した。にもかかわらず昨今、医師不足が叫ばれている。私らの若い頃をふりかえてみると、元気に任せて1週間に2回位は当直をしたものである。しかも今のように指導医もいない状態であった。もっとも、今よりも働きやすく1,2で述べたような条件もなかったのも事実であるが。實際上、年々生まれる新医師の数はここ十数年来変わらないのに、大手を振って当直などのアルバイトができるのは、私立の病院の医師とパートの医師だけなのである。また病院勤務の医師が激減しているのも事実である。開業すれば努力次第で自己の収入をアップできるし、当直もしなくていい。こうして救急を標榜する病院は少なくなる。

現状をどう解決するか。以上の考察から、おのずから回答がなされる。具体的にいかに行に移すかである。



## 仮称)サテライト老健なごみの里開設に向けて

介護課長 山本 雅章

サテライト型小規模老人保健施設(29床 ユニットケア)を開設する準備を始めて3ヶ月が経とうとしております。建物の図面も決まりハード面は計画通り進んでおります。私たち施設スタッフはその間に「サテライトなごみの里運営実行委員会」を立ち上げ、運営について会議を重ねております。その会議で一番初めに話合ったのはサテライト型小規模老人保健施設の特色とはなにか?従来の老健と比べ、どのような違った役割を担っているのか?どのような理念でもって運営するべきか?を話し合いました。「在宅復帰を促す」「個別にケアを行う」「在宅生活継続支援」などの言葉が

飛び交う中、現在運営している本体老健であるなごみの里(150床)の基本理念と何が違うのか?という議論になりました。そしてスタッフが出した結論は、理念は従来の本体老健であるなごみの里と同じであるが【小規模である事】【ユニットケアである事】という従来と違ったアプローチで、その理念を実現するための試みである、と言うようなものでした。本体老健であるなごみの里が抱える諸問題を解決するためのヒントとなるような運営に努め、本体老健なごみの里と共に利用者に喜ばれる施設を目指していきます。

## 枚方市地域包括支援センターみどり

### 包括的ケア体制の構築

所長 榎野 仁

地域包括支援センターは、介護保険法の改正に伴い、高齢者が住み慣れた地域で健やかに安心して日常生活が過ごせるよう支援することを目的に、2006年4月に創設されました。

枚方市では保険者としての包括支援センターの設置、運営は行わず、地域の民間7法人に全面委託という形態をとっております。

当包括支援センターの運営状況は、300件を超える介護予防利用者のプラン作成のほか虐待・精神疾患(認知症を含む)・経済的生活困窮者等、在宅生活困難事例の対応に多忙を極めているのが実情であります。

地域包括支援センターの業務内容は、介護予防プラン作成のほか、財産管理を含めた成年後見や高齢者虐待防止法に基づく虐待の早期発見、消費者被害の権利擁護等多岐に涉っております。また、最近では高齢化社会を反映して、認知症状と精神疾患を併発した在宅生活困難者の処遇で、当事業所でも問題解決に向けて

実態把握、情報の共有等に努めておるところですが、その対応には行政各部局、関係機関との連携に温度差を感じております。

来年、平成21年度には包括支援センターの設置、運営等の改正が行なわれる予定です。団塊世代の高齢化に備えた健全な包括的ケア体制の構築に向け、介護予防プラン作成に迫られる現状打開と地域住民のニーズに即応するための適正な職員配置等、社会保障審議会には抜本的な改革を望みたい。本年も地域の高齢者支援に職員一同取り組んでまいりますので、関係各位のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



## ■ ユニットケアの運営について

特別養護老人ホームいこいの里 施設長 中 村 敏 子

特別養護老人ホーム“いこいの里”を開設して、10ヶ月が経ちました。入居者様は、新しい環境に慣れ、やっと落ち着かれた頃だと思います。

さて、“いこいの里”の入居者様が「自分らしい生活」をなさっておられるでしょうか。皆様のお部屋が施設から用意した家具類だけで、長年使い慣れた家具、又思い出ある物や好みの物を置き、自分の部屋らしく、そこに居れば安心できる居場所になっているでしょうか。入居者様の生活リズムが介護スタッフ側からだけのケアシフトになり個人個人の生活リズムに合ったケアシフトが組まれているでしょうか。組織や勤務体制などがチームケアを推進する仕組みとなっているでしょうか。

本年度は、このハード面、ソフト面、システム面から各々テーマを募り、ユニットケア推進の運営計画書を作成しようと思っています。そのテーマには、どう言った狙いがあり、又どの様に具体的な行動計画で行うか、又いつ頃までに実施する

か、などをユニットリーダー、中間管理職、管理職の方々に作成し、またそれらを1本化し、施設全体のユニットケア推進運営計画書とします。

来年の新年号にこの計画書の実施結果、今後の展望が発表できればと思っています。



## ■ いこいの里における褥瘡の取り組みについて

看護師長代理 牧 直 子

いこいの里ではで要介護5の方が15人(1月現在)と日常をベッド上もしくは車いすで過ごされる方も多くご利用されています。このような、介護が必要な方で最も懸念されるお身体の変化として「褥(じょく)瘡(そう)」が挙げられるのではないのでしょうか。褥瘡とは寝たきりの方だけが発生するものと一般的に思われがちですが、ご本人の栄養状態や拘縮の状態により容易に起こりえるものでもあります。

いこいの里でも、早期に褥瘡を発見、予防の取り組みとして「褥瘡予防委員会」を立ち上げました。早期の予防には看護職員だけでなく、介護・栄養士・相談員・ケアマネ、そして何よりご家族様のご協力も不可欠です。看護職員の予防の取り組みとして、褥瘡になりやすい要因を早期に調べるための調査方法「ブレーデンスケール」

を用いて、事前把握をしております。

来年度の「褥瘡予防委員会」の研修計画として、スタッフだけでなく、ご家族や地域のみなさまにも広く褥瘡予防について講習会を企画していきたいと考えています。



## ■ 医師リクルート業務からの発信

法人本部 人事部長代理 福 林 正 行

今日の相次ぐ診療報酬マイナス改定や医師の絶対数の不足は、地域医療・科別医療の崩壊を招いているのではと危惧しています。

そんな中であって、地域医療や地域高齢者福祉を実践する私たちです。私たちの職場が、もっともっと元気と誇りと生きがいを取り戻すことが大切でしょう。

人事部は、医療現場の要である医師リクルート及び先生方の招聘をさせていただきます。

ところで近い将来、私たち医療法人みどり会に常勤医師として在籍していただく医師・先生方がきっといらっしゃるはずで。大学の医局から、民間医局から、そして、法人のホームページや人的つながり等から、多くの医師・先生方とご面談できる日を理事長はじめ職員一同が大望しています。どうかその際は、よろしくお願い申し上げます。

## ■ 各施設連絡先

### ● 社会福祉法人 松 樹 会 ●

特別養護老人ホーム いこいの里 072-898-2197  
居宅介護支援センター つくしんぼ 072-898-2196  
つくしんぼ 長 尾 072-868-2190  
デイサービスセンター 長 尾 072-868-2190  
有償運送事業(福祉タクシー) 072-868-2190  
つくしんぼ 藤 阪 072-868-2191  
た ん ぼ ぼ 藤 阪 072-868-2197

鍼灸接骨院 つ ぐ み 072-836-8280

### ● 医療法人 み ど り 会 ●

中 村 病 院 072-868-2071  
地 域 医 療 相 談 室 072-868-2071  
中 村 記 念 病 院 072-868-2070  
な ご み の 里 072-868-2072  
配食サービスセンター なごみ 072-868-2072  
み どり 介 護 学 院 072-868-2194  
た ん ぼ ぼ 長 尾 072-868-2195  
訪問看護ステーション みどり 072-868-4392  
訪問介護ステーション みどり 072-868-4392  
枚方市地域包括支援センター みどり 072-845-2002

### —— 編 集 後 記 ——

平成20年度に入り、初めてのみどりの風となり第11号では両法人の各施設代表者を中心とした所感を掲載させていただきました。

今年度も新規事業として10月サテライト老健なごみの里の開設に向かって取組んでおります。医療・福祉・健康分野の活動を通じて更なる地域にお役立ちができるよう発信してまいりますので、皆様方の御指導、御意見を頂戴できればと思います。

季刊誌発行委員会  
連絡先 ☎072-868-2071  
法人本部 松 田